

# へ学校盲塚平 桜香る

## 鉢植えで「春感じて」

香りが豊かな桜「春めき」を視覚障害者施設などに寄贈している一般財団法人「春めき財団」（南足柄市）が7日、平塚市の県立平塚盲学校に移動可能な「モバイル春めき」を贈った。  
（丹下信之）



古屋さん

### 南足柄の法人が寄贈

春めきは、財団の代表理事で、南足柄市で農業を営む古屋富雄さん(65)が品種登録し、畑で苗を育てている早咲きの桜。ピンク色の花びらがたわわに咲き、独特の香りがするのが特長



春めきの香りをかく子どもたち（県立平塚盲学校で）

だ。古屋さんは企業の協力も得て、春めきを普及させるための財団を1月に設立。就農希望者への支援活動も行っていくという。

古屋さんは2001年から県内外の市町村などに寄贈を続けており、東日本大震災後には、支援団体を通じて仙台市の仮設住宅にも届けられた。目が不自由な人も香りで春を感じる事ができると考えた古屋さんは、15年からは特別支援学校や視覚障害者の支援団体などの計12施設にプレゼントしている。

一方、学校などの敷地に

植樹する十分な場所がないケースもあったことから、古屋さんは春めきを鉢に植えることで、玄関先や室内などの好きな場所で楽しめるようにした「モバイル」を作った。

この日、平塚盲学校には高さ約2呎に育った春めきが贈られた。事前に花を咲かせていた春めきも受け取った子どもたちは「ほんのり甘い香り。春っぽい香りがする」と喜んでいた。

平塚盲学校には、3年前にも4本が寄贈され、毎年花を咲かせている。児童・生徒を代表し、高等部普通科3年の菊地泰成さん(18)は「この春めきも大きく育てたいと思います」とお礼の言葉を述べ、古屋さんは「これからも寄贈を続けたい」と目を細めていた。